

# 外国人対応消防指導教材映画の制作について

上越地域消防局（新潟県） 入村 宗

## 1 現状と問題点

我が国を訪れる外国人数を年別に見ると、わずか10年足らずで3倍以上に急増し、令和元年には約3,200万人にまで上っている。そして、令和2年から数年間は例外にせよ、この増加傾向は中長期に渡って続くことが予想される。（図1参照）

そんな中、訪日外国人及び彼らが利用する宿泊施設や公共施設等に対して、日本のきめ細やかな消防指導を行き渡らせ、以て全体の自衛消防体制を強化することは全国的課題とされてきたが、これを容易ならざるものにしてきた主な原因の1つに「言葉の壁」があった。

## 2 英語による教材映画の制作

市民からの期待に等しく応える上で、相手が外国人だからといって通報・誘導・初期消火を基本とする防災訓練の質を低下させてはならないが、その都度、通訳を介して指導することは現実的ではない。

そこで、アフターコロナのインバウンドを万全の態勢で迎えるため、DVD再生機とモニターさえあれば、人種、国籍の隔てなく、火災を生き抜く術を一通り学習出来る全編英語ナレーションベースの「外国人対応消防指導教材映画」を制作した。（写真1参照）

## 3 映画の特徴

### (1) 物語調の火災シミュレーション

防災訓練や防火座談会等で手軽に上映出来る30分間の本作品には、冬期間、消防の到着に時間を要する山間地の小規模ホテルで発生した火災を通じ、老人、怪我人、酔客等の多彩な外国人宿

泊客達が、勇気ある支配人夫妻の指示の下、「自助」と「共助」によって避難を完了するまでが描かれている。(写真2参照)

物語調で進行する本作品は、外国人を中心とした一般市民が視聴する火災シミュレーションであることから、精緻なコンピューターグラフィックスで描かれた火炎、黒煙、爆発等により再現される火災現場の臨場感を大事にしている。(写真3参照)

その上で、防災教材としての専門的な学びの中に、映画としての大衆性を持たせるべく、終始、スリリングなエンターテインメントに徹して仕上げられている。なお、インターネット検索で「To Save Lives ダイジェスト」と入力すると、本作品の物語と特徴をダイジェスト映像で見ることができる。

(<https://www.youtube.com/watch?v=ztBG9qEpVSM&t=3s>)

## (2) 火災を「生き物」として捉える構成

消火設備の使用方法や避難時の姿勢等の技術をそれぞれ紹介する映像はネット上でも数多く見られる。しかし、火災は常に変容し続ける現象であることから、火災現場を「生き物」として総合的に捉え、流れの中で、個別の技術がどう生かされるかを理解することで、有事の際の生存率はさらに上がるものとする。

本作品では、初期、成長期、最盛期へと火災が拡大するにつれて、登場人物達に様々な危機が迫る。そして、それらへの適切な対応は、進行する物語の中で、都度、簡潔な解説映像として織り込まれていく。そうすることで映画全体のスピード感を損なうことなく、刻々と変容する火災において、各局面をいかに対処し生き抜くか、イメージしやすい構成にすることが可能になった。

(写真4～写真15参照)

## (3) 外国人の理解に主眼を置いた脚本

日本語を母語としない市民に向けられた本作品の脚本は、日本語から英語への直訳によって言語的に違和感が生じないように、初めから英語で書かれ、音声として吹き込まれている。そして、二次的に日本語に翻訳したものを字幕化し、さらに和・英の字幕切

替えを可能にしたことにより、視聴者の国籍を問わず、さらには耳の不自由な方にも等しく理解できる作品になっている。(写真16、写真17参照)

#### (4) 幅広く使用できるアドバイスコーナー

DVDを再生すると現れるメニュー画面からは、ストーリー本編とは別に、災害時や火災予防に役立つ13のアドバイスコーナーが選択できる。このアドバイスコーナーの内容は次のとおり多岐に渡り、それぞれ1分程度の長さで項目化したことで、座学等のプレゼンテーション資料としてはもちろん、防災訓練の各種実技展示にも使える。(写真18～写真29参照)

- ア 火災発生時の初動について
- イ 消火器の取扱説明について
- ウ 初期消火時の注意について
- エ 119番通報の仕方について
- オ 避難障害について
- カ 避難中の姿勢について
- キ 豪雪地帯に特有の注意点について
- ク 防災物品の必要性について
- ケ 一般人が1人でも可能な救助技術例について
- コ 少量危険物規制について
- サ 「待つ」という避難技法について
- シ 避難器具の導入推奨について
- ス 火災現場への再進入の危険性について

#### 4 制作費

本作品の出演者はいずれも消防職員であり、脚本、撮影、コンピューターグラフィックス、ナレーション、編集のすべてを制作者が手掛けていることから、基本的に費用は発生していない。なお、完成した映像はデジタルデータであり、今後、複製に求められるのはDVD-Rのみである。

## 5 映画の運用事例に見る成果

### (1) 外国人が経営する宿泊施設に対する防災訓練指導

外国人が経営する宿泊施設を多く擁するスキーリゾートには、例年、海外からの旅行者が好んで長期滞在する傾向にある。このことから、スキーシーズンに先立ち、該当する施設関係者に本作品を視聴してもらった上で、物語内で学んだ避難、通報、消火、救助技法を実技で体得する訓練を行った。

まず、本作品の映画としての完成度について考察するが、エンドロールが始まるなり自然と沸き起こった拍手と、視聴者達が自施設のスタッフにも見せたいとDVDの貸し出しを要望してきた事実から、一定の評価が得られたものと考えられる。

映画上映後に行われた訓練では、参加者全員が、あらかじめ映像を通じて動きを確認し、ポイントを把握できていたことから、指導に当たる消防職員にとっては、慣れない言葉での説明に係る負担が格段に軽減し、訓練自体を円滑に進行できることが認められた。(写真30、写真31参照)

### (2) 和・英字幕による同時上映会

冬季間、外国人人口が増す地域特性を共有する複数の消防本部が県境を跨いで管轄する地域を選定し、日本人と外国人の隔てなく、飲食店、宿泊施設関係者等を対象に本映画の上映会と避難訓練を共催することで、消防機関の垣根を越え、地域ぐるみで自衛消防体制の強化を図った。

この取組では、和・英それぞれの字幕を有する本作品の特徴を生かし、それらを2スクリーンで同時上映する試みを行った。これは、同じ地域に居住しながら、近くて遠い日本人と外国人の住民関係に一石を投じるもので、事実として、言葉は違えども同じ物語を共に楽しんだ参加者の避難訓練は、それまでになく和やかな雰囲気が進んだ。テレビや新聞各紙のインタビューでも、「こんな訓練をずっと待っていた。」という声が数多く取り上げられ「火の用心」から始まる住民同士の融和が、この上映会をきっかけに実現し得ること

が認められた。(写真32、写真33参照)

### (3) 官学連携英語防災教育事業

本作品は語学教材としての有用性から、複数の中学校において既に採用されている。物語全編を通じて流れ続けるナレーションは、現在のリスニング教育で主に採用されている米国英語である上、防災に係る教養をふんだんに盛り込んだことで、地域の自衛消防体制を担う将来世代に対し、英語教育と防災教育とを融合させる発展的授業が可能となった。(写真34、写真35参照)

## 6 終わりに

日本のきめ細かい消防指導の下、アフターコロナのインバウンドを万全の態勢で迎えるために制作した全編英語の「外国人消防指導教材映画」は、その成果から、消防職員個人の語学力に左右されず、有効かつ質的に画一化された消防指導を実現できる強力なツールであることが証明されたと考える。そして、この映画は、国籍を超えた地域住民同士の融和や、将来世代に対する英語防災教育等、運用方法次第でさらなる可能性を広げるものと言える。

このことから、訪日外国人が利用する宿泊施設、公共施設等における自衛消防体制の強化という全国的課題に対する1つの提案として、当消防局は、かつて、火災件数が減少傾向にある中で調査員の経験値不足に挑むべく開発し、以来4年間で全国230を超える消防機関に広がっていった「火災調査シミュレーションアプリ」同様に、令和3年6月1日、「外国人対応消防指導教材映画『To Save Lives』運用規程」をホームページにアップし、正式に本作品の無償提供を開始した。

これまで「言葉の壁」に難儀しながら、外国人への防災指導の有効な手段を模索してきた全ての消防職員にとって、この取り組みが僅かでも光明となれば幸いである。

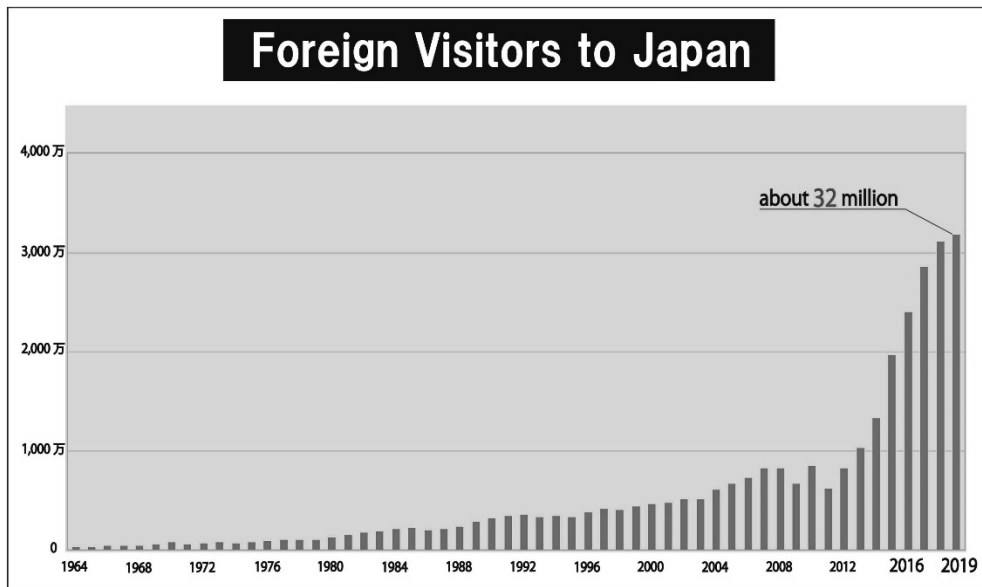


図 1 年別訪日外国人数の推移



写真 1 作品の DVD

写真 2 多彩なキャラクターが繰り広げる

「自助」と「共助」の物語



写真 3 絶えず動く黒煙、舞い散る火の粉が生み出す火災現場の臨場感



写真 4 初期消火失敗



写真 5 火災発生の周知



写真 6 協力者の確保



写真 7 排煙作業の協同



写真 8 怪我人の保護



写真 9 1人でできる救助技法

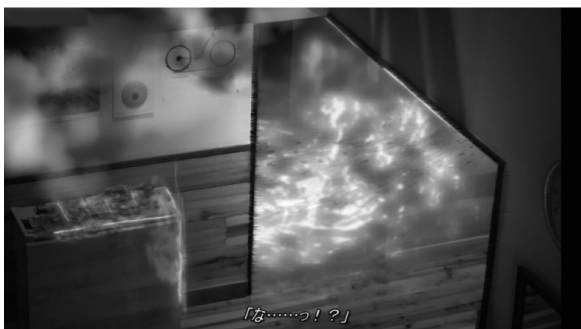


写真 10 予期せぬ爆発



写真 11 避難経路の断絶



写真 12 逃げ場を失った状況

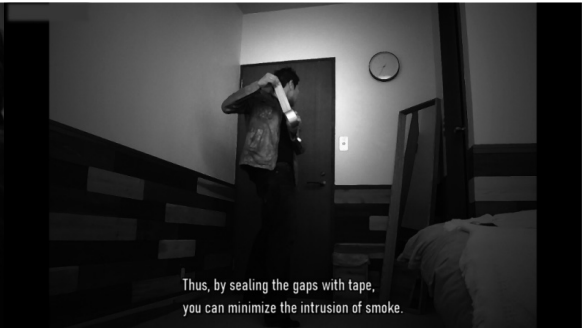


写真 13 室内への煙の侵入を抑止



写真 14 火災現場に集う付近住民



写真 15 人命救助の協同



写真 16 日本語字幕で見る 1 シーン



写真 17 英語字幕で見る 1 シーン



写真 18 日本語字幕版のメニュー画面

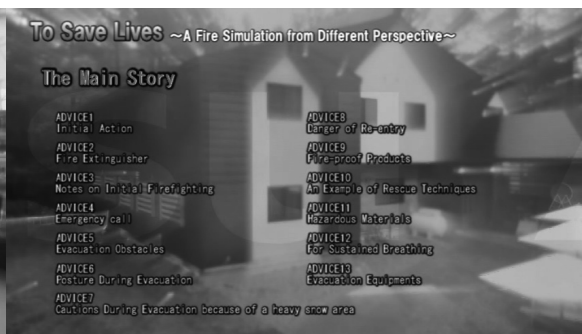


写真 19 英語字幕版のメニュー画面





写真 20 初動の優先順位



写真 21 自動火災報知設備の見方

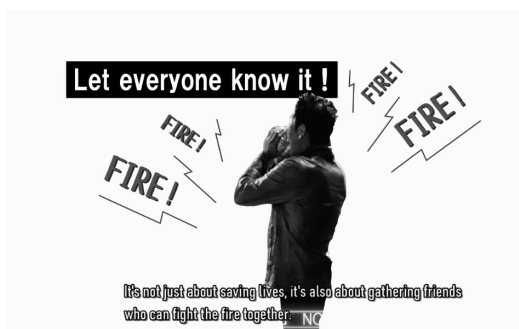


写真 22 火災を周知する理由



写真 23 初期消火の限界



写真 24 避難障害

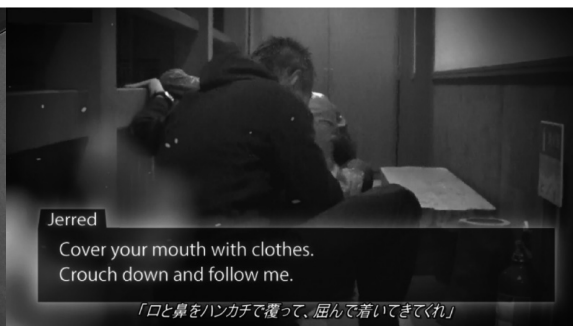


写真 25 避難中の姿勢

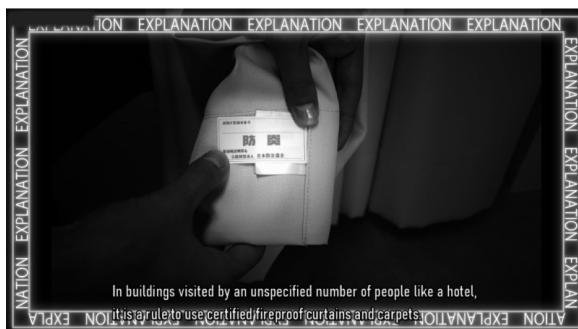


写真 26 防炎物品

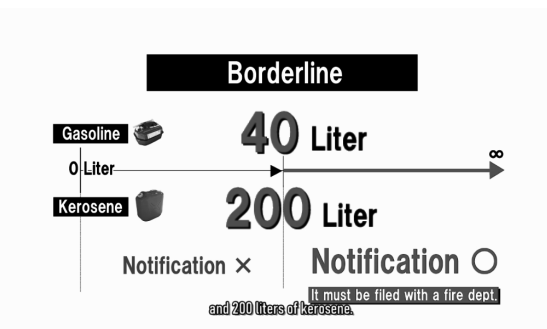


写真 27 少量危険物規制

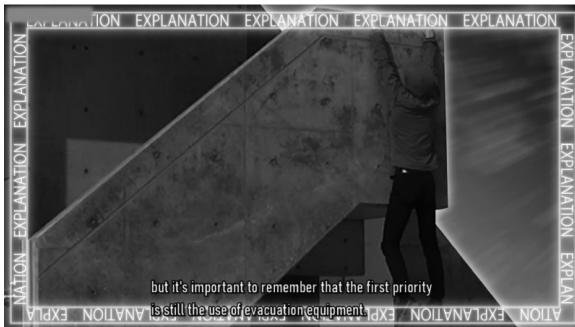


写真 28 避難器具の必要性

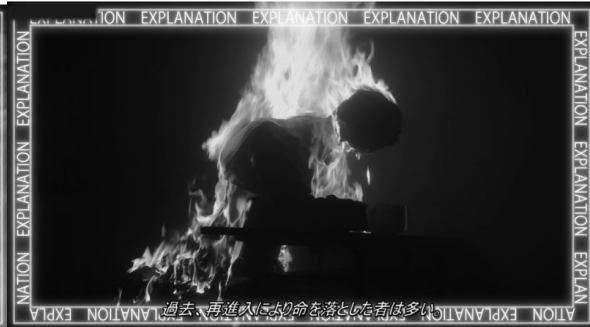


写真 29 火災現場への再進入の危険性



写真 30 外国人経営者らが映画に見入る様子



写真 31 映画で得た知識を実技に移す様子



写真 32 和・英字幕で映画を同時上映



写真 33 人種と消防機関の垣根を越えて、  
地域ぐるみで行う防災訓練

写真 34 英語と防災を授業で融合



写真 35 英語によって行われる通報訓練は  
リスニング教育に発展